

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：日高高等学校中津分校学校 校長名：山本 直樹

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する） ・地域の学校として地域に愛され、学校教育活動を通して自己肯定感を育成し、自らの進路を切り開き、社会に貢献できる人材を育てる学校。 ・基礎学力や粘り強さや誠実さ、協調性を身に付け、主体的に行動し、状況に応じた適切な判断や行動ができる生徒。また、地域にある学校として、地域の魅力を知り、地域の実情を把握し、地域社会に貢献できる生徒。	学校評価の公表方法 学校のホームページを通して、保護者に自己評価や学校関係者の評価の結果を知らせると共に、「学校評価シート」にある方針、実施状況を学校運営協議会委員に対して説明し、ご意見を頂き教育活動に活かす。
--	--

自己評価（分析、計画、取組、評価）								学校関係者評価（3月30日実施）	
番号	計画・取組				評価（3月17日現在）				
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策		
1	生徒ひとりひとりの学習状況を把握し、学習意欲を高め学力の向上を目指す。	B	学習環境の整備や授業規律の指導を徹底する。	授業時での規律、態度を正し、学びに向かう姿勢を指導し養っているか。	B	授業遅刻はなく、落ち着いた雰囲気で授業を受けた。	クラス内学力格差が大きく、授業展開は困難であるが、少人数の特性を活かし個別対応を充実したい。様々な機会を捉え、学ぶ目的・意義を繰り返し伝え、学ぶ意欲を高める授業展開や教材の工夫を行いたい。	学校関係者（学校運営協議会）から頂いたアンケート結果では、 A：そう思う B：どちらかというと思う C：どちらかというと思わない D：そう思わない E：よく判らない の評価規準である。 （1）目標や重点がわかりやすく示されているか？の質問では、Aが67％ Bが33％ （2）生徒が、明るく生き生きと学校生活を送っていると思いますか？Aが17％、Bが83％ （3）学校はコミュニケーションをとりやすいですか？A50％ B33％ E17％（4）教育活動に保護者や地域の意見が反映されていますか？A50％ B50％（5）教職員は協力して教育活動を行っていると思いますか？A67％ B17％ E16％（6）他の学校にない特色がありますか？A83％ B17％（7）わかりやすい授業を展開していると思いますか？A50％ B50％ （8）習熟度別・少人数授業は生徒にとって有意義と思いますか？ A67％ B33％ （9）進路指導は充分ですか？A67％ B17％ E16％という結果であった。 自由記述では、○少子化がますます進行することを考えると、分校を単独で残すためには、地方自治体との交渉や関係機関からの協力、後押しが欠かせないと思います。 ○地域と関わった特色ある取り組みを行っており、小規模ならではの成果を上げていると思います。○硬式野球の取り組みは充実しており、成果も上げていると感じますが、野球以外の取り組みで地元中学生が行ってみたいと思わせるものがあれば、もっと充実して、志願者が増えるのではないかと思います。難しい課題だと思いますが、今後に期待しています。	
			教材の精選、発問や授業展開の研究・実践を行う。	学ぶことの意義と主体的に学ぶ態度を育成できているか。	A	学習の進捗状況をこまめに観察し指導に活かした。			
			配慮を必要とする生徒について実態把握し対応する。	毎日行う情報共有により実態把握して、指導に活かしているか。	A	毎日の情報共有を行い学習状況等把握できた。			
2	規律ある生活習慣を身につけさせ、目標を持った意欲的な高校生活を送らせるように全職員が指導にあたる。	B	校内外において挨拶運動、身だしなみ指導を行う。	挨拶の励行や校内美化の徹底ができているか。	B	年度後半に挨拶が徹底できていない状況が見受けられ改善した。	全校生徒の9割が野球部であり、規律正しい寮生活や学校生活を送ることができたので、習慣となるように取り組みたい。来年度も、毎日の情報共有を行い、全職員が対応するような体制を構築したい。		
			1日を振り返り、生徒の情報共有を行う。	情報共有により生徒状況を把握し、教育活動に活かしているか。	A	情報共有がされ、教育活動に活かすことができた。			
			自他の人権意識向上など研修や講演を実施する。	いじめ・SNS指導・特別指導ゼロを目指す。事前指導をしっかりできたか。	A	いじめ・特別指導はなかった。			
3	学校教育活動全体を通して、自己肯定感や豊かな人間関係を築き、自らの進路を切り開く力の育成を目指す。	B	特別活動への積極的な参加を促す。	豊かな人間関係を構築する力を育むことができたか。	B	総合的な探究の時間やLHRを充実できた。	進路に関する意識が低く、安易に指定校推薦やAO入試を選択する生徒が多く、生徒自身が自分の進路開拓をしていけるように、情報提供や、3年間の系統立てたキャリア教育を構築し実践する必要があるので、進路講話やガイダンスを充実したい。		
			進路実現のために個人面談や三者面談を実施する。	安易な進路選択ではなく将来を見据えた進路指導ができたか。	A	全学年とも数回、面談を行うことで進路意識を高めることができた。			
			大学見学や職場見学等を通してキャリア教育を推進する。	生徒が主体的に高い目標を持ち、自らの進路を切り開く力を育むことができたか。	A	進路ガイダンスの回数を増やし、充実した内容になるように工夫できた。			
4	地域との連携を深め、体験や経験を通して地域を理解し、積極的に地域貢献する意識と態度を養う。	B	地域の関係機関と連携し校外学習を実施する。	地域社会に貢献することができる生徒を育成することができたか。	A	総合的な探求の時間等を利用し積極的に活動した。	総合的な探求の時間やLHRを活用して、地域学習や地域貢献を目標に各学年取り組んだ。特に1、2年生は、積極的に取り組み、生徒の自主性や行動力に大きな成長が見られた。来年度は学校としてどう取り組むか、課題だが継続したい。		
			地域と連携して防災教育に取り組む。	地域の防災リーダーとして活躍できる知識・技能を身につけることができたか。	A	自衛隊の協力を得て、防災スクールを実施した。			
			地域の歴史や産業等を学習し社会性を養う。	地域の魅力を知り、地域の課題に対して取り組み、行動や発信ができたか。	B	1年生の遠足を利用して地域学習を行ったが、十分な時間確保ができなかった。			